

木村 努さんのご逝去を悼む

Obituary: Tsutomu Kimura (1940–2021) in memoriam



令和3年3月26日に肝硬変のため逝去されました。享年80歳でした。横浜市立大学に入学後、活動の一環として北上川など河川の上流部から下流部にかけての生物調査を行っていた探査会（顧問 福島博教授）に入会しました。入会后、木曾三川の流下藻類の調査に参加し、福島博教授の指導の下に1964年に福島博・河合武臣・木村努・宮崎捷二による「木曾三川の流下珪藻」を在学中に発表しました。卒業後は名古屋市水道局で生物担当の募集があり、藻類の研究が出来ることに魅力を感じ就職し、37年間水質の現場で活躍されました。ここでは主に日常的な水質検査と共に定期的な木曾川水系の水質調査やダム湖の水質調査、木曾御岳の噴火による河川への影響調査、各種水道に関係する生物調査と幅広い調査を行い、学会発表されてきました。その後、組織の中での研究発表が制限され、報告書という体裁で研究成果を表してこられました。その傍ら、自宅での研究環境を整えられて、あらゆる機会を利用して珪藻標本を収集し資料の作成に励んでおられたようです。日本の水系ばかりでなくご親族の海外駐在先での試料の採集や、生物地学研修会主催の海外ツアーに参加してかなりの国の試料を採集されました。退職時には膨大な量の標本及びスライド標本を収集、整理されていたようです。

退職後は水道などの現場で利用できる図鑑の必要性を感じ、まずは珪藻の中で分類の困難な *Navicula* 属の分類の整理を福島先生と共同で研究を開始されました。そ

のため名古屋と福島先生の研究室のあった横須賀を往復し、時に泊りがけで図鑑作成作業をすることもしばしばあったようです。一方、日本珪藻学会においても福島会長のもとで2007年から2010年にかけて会計幹事、運営委員で活躍なさいました。ところが2010年には長年患ってきた肝硬変が進行し、学会の運営の仕事には支障を及ぼさなかったものの体調は悪化し早期の図鑑の発行を迫られるようになり、肉体的にも精神的にも随分苦労されたようです。入院中も図鑑作成のためのパソコン作業を続け何とか2018年5月に内田老鶴圃から「珪藻 *Navicula* 図鑑」の発売にこぎつけました。その後、在職時から計画していた「木曾川の珪藻」の執筆に取りかかれましたが肝硬変の進行と共に腫瘍マーカーの上昇もみられ入退院の間隔も狭くなり体調不良に苦しんでおられたようです。そのような中でも本の執筆のために入院中の病院にパソコンを持参し仕事を続けられていたようですが、病魔には打ち勝てず最後まで「木曾川の珪藻」に未練を残しながら去っていかれました。

木村努氏は私の大学時代の先輩でもあり、入学したての私は4年生になるとこんなに大人になるのだと思わせるほどに冷静沈着、論ずような物言いに時に恐れ、一方学問に対しての真摯な姿に感動を覚えたものでした。図鑑作成の作業中は体調が悪いにもかかわらず、与えられた使命を必死で全うなさる姿に神々しさを感じました。

心からご冥福をお祈りいたします。

(吉武佐紀子)

木村努氏 略歴

1940年5月	東京市目黒区に生まれる
1952年3月	大津市膳所小学校卒業
1955年3月	川崎市立住吉中学校卒業
1958年3月	川崎市立橘高校卒業
1961年4月	横浜市立大学文理学部理科(生物)入学
1965年3月	横浜市立大学文理学部理科(生物)卒業
1965年4月	名古屋市水道局水質課勤務
2001年3月	名古屋市水道局水質課退職
2004年3月	名古屋市下水道局水質課退職
2021年3月	逝去